

現代韓国語基礎語彙の意味分析について —主に辞書の記述をめぐって—

門脇 誠一

1. はじめに

本論は、現代韓国語の類義語間の意味分析研究の一環として、現代韓国語の基礎語彙の意味分析について、主に辞書の記述をめぐって、日本語とも対照しつつ再検討することを目的としている。

現代韓国語の基礎語彙の意味分析を幅広く行った研究としては、梅田(1971)をあげることができるが、その後、部分的な意味分析の研究は見られるものの、基礎語彙全体を扱ったものは未だ出ていないと言っていいし、更に、日韓語の対照研究においても、語彙の意味に関する研究は、他の分野に比べてそれほど進んでいるとは言えない。

特に、類義語に関する研究を深めるためには、それぞれの語の意味分析が十分に行われている必要があることは言うまでもない。そして、類義語間の意味の違いが正確に記述されるようになることは、日本語学習者や韓国語学習者の学習意欲を一層高めるための動機付けにもなるだろうと思われる。(注1)

ところで、梅田(1971)のはしがきに、「本書は朝鮮語の基礎語彙研究のための準備報告であるに過ぎず、本書を踏台として今後更に研究を進めていかなければならない」旨のことが書かれているが、その後の研究が全体としてみて、期待された方向に向かって進んでいるとは必ずしも言えないのではないと思われる。

辞書における語義の説明も当然言語研究の成果を反映するものであるか

注1 筆者などが編纂に関わった辞書で、類義語間の意味の違いについての記述はあるものの、メモ程度のものであり、決して十分なものとは言えない。

ら、不十分なものにならざるをえない。

日本における日本語の意義素分析の研究は目覚ましい成果を上げつつあると思われるが、韓国における言語研究は、どちらかと言うと、文法に重点が置かれ、語彙、中でも単語の意味に関する研究（類義語間の意味分析など）はそれほど進んでいるとは言えない状態にある。

2.

外国語を学習する際に、対象とする言語の類義語の意味の違いについての適切な説明があれば間違わないですんだのにという思いをしたことのある人は少なくないであろう。

以前、日本に來ているアメリカ人留学生が、米屋に米を買いに行って「ご飯ください」と言ってびっくりされたという話を讀んだことがあった。これは、英語の rice が日本語の {稲・米・ご飯} という意味を持っているため、その干渉を受けて生じた間違いであることは言うまでもない。現在では、辞書にこのような間違いやすい意味の違いは記述されるようになっているので、以前と比べて間違いは起こりにくくなっていると言えるであろう。

この {稲・米・ご飯} という語は、韓国語においては日本語とほぼ 1 対 1 に対応しているので、韓国人がこの語の基本的な使用法を間違えるということはない。

2. 1

では、韓国語と日本語の場合はこのような問題が起こらないかと言えば、そんなことはない。文法はもちろんのこと、語の使用法についても類似点が多いだけに、かえって、陥りやすい間違いが少なくない。にもかかわらず、この分野に関する研究がなかなか進まないのは残念なことである。

2. 2

以下にあげる例は、2011年に同志社大学で行われた「辞書編纂に関する

シンポジウム」で発表したものの一部である。(注2)

学習者の理解を深めるためにも、辞書に簡単にでも触れておいたほうがいいと思われる例をほんの数例ではあるが、参考までにあげておこう。

① 「迷子」と「迷児 mia」

日本語の「迷子」という語は、本来は「幼児」についてだけ使われた単語だと思われるが、今では用法が拡大して、「迷子の犬捜しています」「おばあさんが迷子になった」などのように「幼児」以外の場合にも使われるようになっている。

ところが、韓国語の「迷児 mia」は幼児以外には使われないのである。

それでは、韓国語では、上述の「おばあさん」や「犬」などの場合はどのように表現されるかというと、「おばあさん」の場合であれば、英語と同じように「道を失う」という言い方をしなければならないし、「迷子の犬探しています」の場合であれば, 잃어버린 개 찾습니다. ilhoboli-n kay chac-sumnita. 「失くした犬探しています」というような言い方をしなければいけないのである。

② 「しらが・白髪」と「흰머리 hui-n moli・백발 paykpal」

日本語においては、「白髪」は頭髮全体がまっ白である場合を言い、「しらが」は部分的に白い頭,あるいは一本一本の白い頭髮を言う。つまり,「しらが」は1本,2本と数えられるが,「白髪」は1本,2本と数えられないというわけである。

一方,韓国語の場合はどうかと言うと,やはり一本,二本と個別的に数えるときは 흰머리 hui-n moliが使われ 백발 paykpal は使いにくいと言われるが,次の例にあるとおり必ずしも全体が白くなっていなくても使えるようなのである。

머리카락의 경우 스무살 무렵에 이미 백발이 섞이는 남성이 있

注2 2011年8月「辞書編纂に関するシンポジウム」において
「韓日・日韓辞典の編纂について」というテーマで発表したもの

다. molikhalag-ui kyongu swumwusal mulyp-e imi paykpal-i sokki-nun namsong-i iss-ta. 「頭髪の場合、20才ごろにすでに「白髪」が混じっている男性がいる。」

この場合、もちろん「huin moli」を使っていいのだが、「paykpal」を使うと品のある言い方になるという。日本語も、「しらがの老人」と「白髪の老人」とを比べると、明らかに品位という点で違いがあることがわかるであろう。(注3)

さらにここで、もう少し一般化させて言うならば、日韓語において、同じ漢字語を使用していても微妙に意味が異なる場合があるということであり、そのような例は少なくない。

こうした問題を扱った研究は勿論少なくないが、さらに詳細に調べなおす必要があるということである。

③ 「間隔」と「間隔 간격 kankyok」

日本語では主に「空間的・時間的な距離」の意味で使用されるが、韓国語では「精神的な隔たり」の意味でも使用され、日本語の「距離」に相当する場合がある。

친척과의 사이에 간격이 생겼다. chinchok-kwauai sai-e kankyok-i sayngkyoss-ta. 親戚との間に距離ができた

나는 요즘 그 친구와 간격을 두고 있다. na-num yojwuum ku chinku-wa kankyok-ul tu-ko iss-ta. 私は最近その友達と距離をおいている/그와 나 사이에는 왠지 모를 간격이 느껴졌다. ku-wa na saieynun waynji molul kankyok-i nukkyojoss-ta. 彼と私の間にはなぜか距離が感じられた

④ 「夫人, 乳母」と「夫人 부인 pwuin, 乳母 유모 yumo」

韓国語の「夫人 부인 pwuin」「乳母 유모 yumo」は日本語と異なりいずれもこのまま呼びかけに使える。「夫人」は日本語の「奥さん」に相

注3 国広(1997) pp6~7

当するもので、「乳母」の方は日本語ではしいて言えば「おばさん」にでも相当するものである。さらに、韓国語においては「아들 adul 息子」, 「딸 ttal 娘」「동생 tongsayng 弟・妹」などの親族名称についても、上の者が下の者に対して呼びかけに使用することができ、日本語と大きな違いを示している。(注4)

このことは、親族名称等の呼称に関する日韓語対照研究の重要なテーマになるものである。

⑤ 「速度 속도 sokto」と「빠르기 ppalu-ki 速さ」

日本語の「速い」という形容詞から派生する「速さ」という名詞に対しては、一般に「速度 속도」という漢字語が対応するのが普通である。しかし、最近では、音楽の世界で 빠르다 ppalu-ta「速い」という形容詞から派生した名詞「빠르기 ppalu-ki 速さ」が使用されている。

Andante (안단테 antanthey) - 천천히 걷는 빠르기로 Chonchon-hi kot-nun ppaluki-lo「ゆっくりと歩く速さで」

これも、日本語の派生名詞の用法の違いについての研究対象になるものである。

⑥ 「根性」と「根性 kunsong」

この語は植民地時代に日本語から入った語の一つである。この時期に日本語から大量に流入した語が韓国語にどのような形で受け入れられ、どのような影響を与えたかについては、いろいろな研究があるけれども、この「根性」という語について言えば、一方で、韓国式漢字音 kunsong として取り入れられ、ほぼ日本語と同じ意味で使用される一方、「コンジョウ」という日本語がそのまま受け入れられ、この場合は「奴隷コンジョウ」「商人コンジョウ」などのように、否定的にしか使われないのである。

ところで、この「根性」も含めて、国語浄化運動の対象になりながらも、残ったものは表社会では使われず、卑語として裏社会で否定的な意味で使

注4 鈴木孝夫(1973)参照

用されているものが意外に多いのである。(注5)

以上あげた例はほんの数例にすぎず、同類の例は調査すればまだまだ相当数出てくるものと予想される。

このような例は、学習者の学習意欲を高めるため辞書編纂において取り入れるべきものであると同時に、他方では、現代韓国語の語彙の意義素分析を進める上での基礎資料を提供することにもなるのである。

3. 本論

それでは、以下に現代韓国語の基礎語彙のなかからいくつか取り上げて、再検討を行う。その際、辞書の説明が語の意味を正確に反映しているかどうか、関連語とも対比しつつ、さらには、日本語をも参考にしながら、多義語と同音異義語という問題についても触れてみたい。

さて、例えば、英語の break を英和辞典で引くと、語義として「こわす、くたく、割る、折る、切る、すりむく」のように多数の意味があげられていることに気がつくであろう

これは、英語と日本語の場合に限らず、どの言語についても見られることで、それが基礎語彙であればあるほど普通に見られる現象であることも今更言うまでもない。

さて、上の例を見ると、break に対して5つの語義が対応しているということは、break の意味の一部とそれぞれの語義の一部とに重なり合う部分があることを意味しており、学習者は文脈に従って適切な訳語を選ぶわけである。しかし、breakの基本義が何かがわかり、さらに、5つの語義のどの部分と重なり合っているのかが辞書に説明されていれば、学習者にとっては大いに役に立つはずである。

注5 ここまで辞書に載せる必要はないかもしれないが、百科事典的な情報という意味で載せておいた。

3. 1

以下に、日本語の「漕ぐ」を例にとって考察してみることにしよう。

日本語の「漕ぐ」を『日韓辞典』で引くと、(櫓・ボートを漕ぐ) 젓다 cos-ta ; (自転車を漕ぐ) 페달을 밟다 peytal-ul palp-ta <ペダルを踏む>; (ブランコを漕ぐ) 뛰다 ttwui-ta <跳ね上がる; 板跳びをする>と出ている。

つまり、韓国語では、日本語と異なり、「自転車を漕ぐ」「ブランコを漕ぐ」の場合 젓다 cos-ta という語は使えないということである。

勿論、日本語と韓国語の単語の語義が一对一に完全に対応するなどということは考えにくいのであるから、当然と言えば当然のことである。しかし、一部が対応し、残りが対応しない場合、その理由がどこにあるのかが説明されていることが望ましいということである。

日本語の「漕ぐ」という動詞に対して、国広(2006)では、「人間が櫓や櫂を動かして舟を前進させる」という現象素を立てて説明している。(注6)

一方、韓国語の 젓다 cos-ta については、韓国人がイメージするのは「コーヒーなどに砂糖を入れてスプーンでかき回す」動作だという。韓国版の『標準国語大辞典』によれば「液体に粉末状の物質を入れてスプーンなどでかき回す」と出ている。

日本語の「漕ぐ」という語の持つ特徴に関して、国広(2006)は、上述の特徴に、さらに「上半身を大きく前後に動かす」という特徴が加わったものと考えている。この特徴は、「自転車を漕ぐ」場合も、(注7)「ブランコを漕ぐ」場合にも共通して見られるものである。さらに、「居眠りを

注6 国広(1997)p176に「現象素」の定義が次のように書かれている。

「語の用法と結び付いた外界の現象・出来事・物・動作など、感覚で捉えることのできるもので、言語外に人間の認知の対象として認められるものである。」

注7 「自転車を漕ぐ」については、現在のような性能のいい自転車の場合は体を前後に動かさなくても前進させることができるが、以前のように、かなり脚に力をいれて踏み込まなくてはならなかった場合には当てはまるといえよう。

する」という意味で使用される「舟を漕ぐ」という成句にも、明らかに「上半身を前後に動かす」という特徴が見られる。

一方、韓国語の *젓다* *cos-ta* にはこのような特徴がないため、「自転車を漕ぐ」という場合は「ペダルを踏む」となり、「ブランコを漕ぐ」という場合は、伝統的な遊びである「板跳び」（シーソーのようになった長い板の両側に人が立って飛び上がったり降ったりするもの）をする時に使用される動詞を使うのである。

以上から、両単語の共通点は「液体に棒状のものをに入れて前後に動かす」とでも言えるもので、この特徴だけで日韓語の「漕ぐ」と「젓다」が対応しているわけである。

3. 2

韓国語の *떨어지다* *ttoraji-ta* という語には、代表的な語義として「落ちる」「(空間的に) 離れる, 別れる」が与えられている。ところで、すべての辞書がこれらの代表的語義を同一の語に属する多義として扱っているのであるが、一見しただけでは、両者の意味的な関連性がわかりにくように見えるこれらの語義が多義として扱われているのはなぜか？

よく見ると、「ある起点から離脱する」という特徴が両者に共通していることがわかる。それが、垂直方向に離脱する場合であれば、日本語の「<落ちる>」に相当し、水平方向に離脱する場合であれば、単に「<離れる>」に相当すると考えることができる。

そして、この「ある起点から離脱する」という特徴が *떨어지다* *ttorajida* の「基本義」(注8)と言えることから、両者の意義に意味的な関連性を認めることができ、多義語と考えることができるのである。

勿論、これらの語義は具象物について言えることであり、「人気が落ちる・価値が落ちる・権威が落ちる」などの抽象的な表現において使用される場

注8 国広の用語を借りれば「現象素」と言いかえてもいいものである。

合は、派生的用法として説明できるものである。

このように分析してみて、日本語を振り返ってみると、実は、日本語の「落ちる」にも現代語ではあまり使われないが、「落ち延びる・都落ち」などのように水平方向への移動を表す用法があることもわかるのである。(注9)

3. 3

흥치다 hwumchi-ta という動詞を辞書で引くと、基本的な語義として「拭く・ぬぐう」と「盗む」という語義があげられている。多くの辞書はこの語義を多義語として扱っているのだが、これまで見た限りでは、韓国国立国語研究院で編纂された『標準国語大辞典』だけが同音異義語として扱い, 흥치다 1 hwunchi-ta1 として「拭く」を, 흥치다 2 whumchi-ta2 として「盗む」をあげているのである。

3. 3. 1

それでは, 흥치다 hwumchi-ta という語を多義語と扱うのと, 同音異義語と扱うのとどちらが妥当かを検討してみることにしよう。

日本語の「拭く」を日韓辞典で引くと, 닦다 takk-ta 흥치다 hwumchi-ta の二つの語が載っている。また, 一方で, 씻다 ssis-ta という語の語義の中に, 「洗う」という基本的語義のほかに「拭く・ぬぐう」という語義もあがっていることがわかる。つまり, 日本語の「拭く」という語には韓国語の 닦다 takk-ta, 흥치다 hyumchi-ta, 씻다 ssis-ta の3つの語が対応していることになる。

それでは, これらの語はどのように異なっているのだろうか？

① まず 씻다 ssis-ta から見ることにしよう。

注9 森田(1977)でも, 「落ちる」に対して「ある位置から離れ去る作用」とし, さらに, それを「そのもの全体がその位置(上位)を離れ, 落下する場合」「全体から一部が分かれて離脱する場合」の2つに分けている。

代表的な語義は「洗う」という意味であるが、同時に「拭く、ぬぐう」という語義も持つとすると、同一の語に属する多義と認めていいのかという問題が生じる。これについては、同音異義語と認めている辞書はないと思われるが、どのように説明すればいいのだろうか？

日本語の「洗う」の基本語義は国広（2006）を参考によると、「対象物に多量の水をかけ、表面をこすったり、もむような力を加えて汚れを流し去る。近代では、石鹸・洗剤を加えたり、電気洗濯機を用いたりする」と考えられる。つまり、日本語の「洗う」動作には必ず「大量の水」を使用することが前提となっていることがわかる。

一方、韓国語の 씻다 ssis-ta については、標準国語大辞典を引くと基本義として「水やチリ紙などで垢や汚れをとる」と出ている。また、『訓民正音国語辞典』には、1.（物体や体を水で）その表面をきれいにする。特に、（対象を）水に浸けたり、水をつけた状態で手などでこすったりして、表面の汚れを落とす」さらに、2. 「（チリ紙やハンカチなどで体の一部を）きれいにする」という語義があげられている。

説明は、『訓民正音』のほうが詳しいが、1. 2. の語義を『標準』ではまとめて記述していると考えられる。興味深いのは、『訓民正音』の語義2の用例として「휴지로 밑을 ~ hyuji-lo mith-ul ~ちり紙でお尻を拭く」があがっていることである。

つまり、この場合は「洗う」ではなく「拭く」に対応すると思われるが、native speaker の話から推測すると、「（揉むようにして）汚れを拭き取る」という意味ではないかと思われる。

こうしてみると、韓国語의 씻다 ssis-ta という語は、普通、水を使って汚れを取り除く場合が圧倒的に多いと思われるが、基本義としては、「ある対象に附着した汚れを取り去る」とでもしておいていいのではないかとと思われる。

汚れを取り除くときには、布やティッシュなどを使って行うのだが、水もこれらと同等の手段と考えることができるのではないかとと思われる。ち

なみに、大量の水を使って衣服などの汚れを取り除く行為、いわゆる「洗濯する」場合には 빨다 ppal-ta という別の語を使うのである。(注10) いずれにしても、日本語と異なり、必ずしも「大量の水」を前提とするものではないということがわかる。

梅田(1971)の「洗う」の項の説明に「水で汚れを洗い流すこと。但し、衣類の洗濯は除く。なお、人体に附着した汗などをぬぐいとする場合にも使うことがある」と出ている。

② 次に 닦다 takk-ta を取り上げてみよう。

『標準』によると, 닦다 takk-ta の基本義は, 「垢, ほこり, 錆などの汚れを取ったり, 艶を出すために表面をこする」とあり, 日本語の「拭く」だけでなく「磨く」にも対応することがわかる。そして, この場合の「拭く」は「磨く」という意味も持っていることから, 基本義としては「汚れが完全になくなるまで, かなり丁寧にきれいに取り去る」と考えることができる。

③ 最後に 흠치다 hyumchi-ta の場合はどうであろうか。

『標準』には「水気や垢などが付いたものを拭いてきれいにする」『訓民正音』には「(物体の表面に付いている水気などを布などで) 物体の表面に当てて取り去る」となっている。しかし, これらの説明だけでは 닦다 takk-ta とどう違っているのがよくわからない。

注10 ちなみに, 日本語の「(米を) 研ぐ」にも 씻다 ssis-ta が使われる。「標準」には「쌀을 물로 ~ ssal-ul mul-lo ssis-ta 米を水でく洗う」という例が出ている。この例は「顔を洗う」という例と同じ個所に出ているのである。韓国人に, 「米を研ぐ」動作をどのようにするのか確認してみたところ, 手のひら全体でかなり強い力を加えてごしごしこするようにして表面の糠やごみを取り除くのではなく, 手を縦にしたまま入れて全体を軽くかき回すようにしたのである。この動作では, ゴミは取り除くことはできても, 表面の糠までは取り除くことはできないのではないかとも思ったが, 最近の米は精米がよくできていて糠がついていないこととも関係があるのかもしれない。

これに対して, 日本人は, 手のひら全体でかなり強い力を加えてごしごしこするような動作はしないまでも, 掌に米を包むように軽くにぎって米と米とをこすりつけるような動作をする人が多いという。

いずれにしても, 韓国人は「米を研ぐ」と言う動作を「顔を洗う」動作と同じように捉えていることがわかる。

梅田(1971)の「拭く」の項には *훔치다 hwumchi-ta* の意味を「物体の表面に付着した液体やほこりなどを雑きんなどでぬぐいとること」としている。

この説明の中で「拭き取る」ではなく「ぬぐいとる」となっている点に注意する必要がある。

実は、この動詞の表す動作をよく観察してみると、テーブルの上にこぼしたソースや醤油などを、その汚れが付着した部分だけを布巾やティッシュなどで軽くぬぐい取ることだということがわかる。つまり、この動詞の特徴は、「汚れの付着した部分だけ」「軽く拭きとる」ことなのである。その意味で日本語の「ぬぐう」に近いと言えよう。(注11)

なお、梅田(1971)の「拭く」の項を見ると、「汗を拭く」場合, *닦다 takk-ta* を使うと「汗が完全に除去される感じ」, 「涙を拭く」場合は, 「涙のあとまでよくこすってなくす感じ」になるとし, *씻다 ssis-ta* を使うと「汗が完全に除かれずに少し残っていてもよい」「ただ流れ出た涙をぬぐう感じ」としており, 違いが良くわかるように説明されていることがわかる。

ところで, native speaker の中には, 最近では「涙を拭く」や「汗を拭く」と言う場合には, *씻다 ssis-ta* と併せて *훔치다 hyumchi-ta* という語も使われると言う者もいるが, この両者の違いについては文体的な違いがあるという者がいるがいまだ明らかではない。(注12) これについては引き続き調査を続けるつもりである。

以上のことをまとめると, 次のようになろう。

日本語の「拭く」に対して韓国語の「*닦다 takk-ta*, *훔치다 hwumchi-ta*, *씻다 ssis-ta*」の3語が対応しているが, 「*닦다 takk-ta*」は「汚れが

注11 森田(1984)p265には, 「ぬぐう」に対して, 「対象に少し付着した何かを, その部分を軽くふいて取り去る行為で, 艶を出したり, 全面を覆う汚れを清潔にする行為ではない」と書いている。

注12 WEB上に, フィギュアスケートでリンクの上でキムヨナ選手が, 右手に花束を持ち, 左手の中指の腹で涙を軽く拭いている写真が出ているが, テロップには「*눈물을 훔치는 김 연아 nwunmul-ul hwumchi-nun kim yona* 涙を拭いているキム・ヨナ」と *훔치다* を用いて書かれている。

完全になくなるまで、かなり丁寧にきれいに取り去る」

「씻다 ssis-ta」は「ある対象に附着した汚れを押し付けるようにして取り去る」

「훑치다」は「汚れが付着した部分だけを軽くぬぐい取る」

このことは、日本語で「拭く・ぬぐう」の2語で表すところを、韓国語のほうは、拭き方についてもさらに細分化して語彙化されていることを意味するものである。

3. 3. 2

それでは、훑치다 の持つ「盗む」という語義について考察してみよう。『訓民正音』では、「拭く、ぬぐう」という意味と「盗む」という意味とを多義として扱っているのに対して、『標準』では同音異義語として扱っていることについてはすでに述べた。

この語が「盗む」という意味に使用される場合、韓国人の頭にまずすぐ思い浮かぶのは、「スリが他人のポケットから財布などを盗む」あるいは「机などの上においてある金品をこっそりと手の中に入れる」ことだという。

こうしたことを踏まえて考えてみると、韓国語の 훑치다 の持つ「拭く・ぬぐう」と「盗む」という意味の間には「対象物（所有物・付着物）を取り去る」という共通点を認めることができると思われる。

そうすれば、その対象物が他人の所有物である場合は「盗む」になり、対象物が垢や汚れの場合には「拭く・ぬぐう」になると考えることができるわけである。(注13)

注13 国広(2006) p 4に「取る」という動詞を例にして、次のように説明を加えているのが参考になる。「先に示した「取る」という動詞の場合、＜獲得する＞も＜除去する＞も手の動作は同じであるが、手がとらえる物がその動作主にとって価値あるものと考えているならば＜獲得する＞が生じ、無価値な物と考えているならば＜除去する＞という意味が生じるのである。手の動作が同じである点を捉えて同じ「取る」が用いられているのだと説明される。このような場合、表面的な意味は反義に近くても、現象素が同一なので、両義は同一の語に属する多義であると考えられるわけである。」

つまり、両者に意味的な関連性を認めることができることが、同一語に属する多義語として扱っている辞書に根拠を与えているのである。

4. 結語

以上、現代韓国語のいくつかの語を中心に主に辞書の記述をめぐって検討してきた。

上述したことをまとめると、

- ① 日本語と韓国語において、一見、同じ意味と見られがちな語でもよく調査してみると微妙な違いが見つかることから、漢字語も含めて再検討する必要のあること。
- ② 씻다 ssis-ta という動詞は、代表的な語義として「洗う」と「拭く」という意味を持っている。一見、関係がなさそうに見える語義が、「対象物の汚れを取り除く」という共通の現象素を持つことから同一の語に属すると考えられること。
- ③ 最後に, 훔치다 hwumchi-ta という語のもつ「盗む」と「拭く・ぬぐう」という意味に関して、辞書によって、同一語の多義として扱うものと、同音異義語として扱うものがある。

一見、意味の関連性を認めにくいように思われる2つの語義に「(所有物・付着物)を取り去る」という意味の関連性を有するものと考え、対象が「所有物」であれば「盗む」になり、「付着物」であれば「拭き取る」になるとすれば、同一語に属する多義と考える十分な根拠になると言えることを論じた。

しかし、これはあくまでも同一語に属する多義と扱っている辞書の記述をもとに、その根拠について考察したものである。

一方で、同音異義語と捉える辞書もあり、意味の関連性を認めない立場の人もいることを認めなければならない。これについては、一般の人たちがこの両義に対して持っている意識を調査してみる必要がある。

さらに、今後、類義語に関する研究が一層積極的に行われることを期待

したい。

引用文献及び参考文献

梅田博之（1971）『現代朝鮮語基礎語彙集』 アジアアフリカ言語文化研究所

国広哲弥（1982）『意味論の方法』 大修館書店

（1997）『理想の国語辞典』 大修館書店

（2006）『日本語の多義動詞』 大修館書店

柴田武他（1976）『ことばの意味』 平凡社

（1979）『ことばの意味2』 平凡社

（1982）『ことばの意味3』 平凡社

鈴木孝夫（1973）『ことばと文化』 岩波新書

田忠魁他（1998）『類義語 使い分け辞典』 kenkyusha

森田良行（1977）『基礎日本語』 講談社

（1980）『基礎日本語2』 講談社

（1984）『基礎日本語3』 講談社

油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎

（2003）『朝鮮語辞典』 小学館

（2004）『プログレッシブ韓日・日韓辞典』 小学館

（2008）『日韓辞典』 小学館

油谷幸利（2005）『日韓対照言語学入門』 白帝社

標準国語大辞典 国立国語研究院

http://stdweb2.korean.go.kr/search/List_dic.jsp

訓民正音国語辞典（2004） 金星出版社